

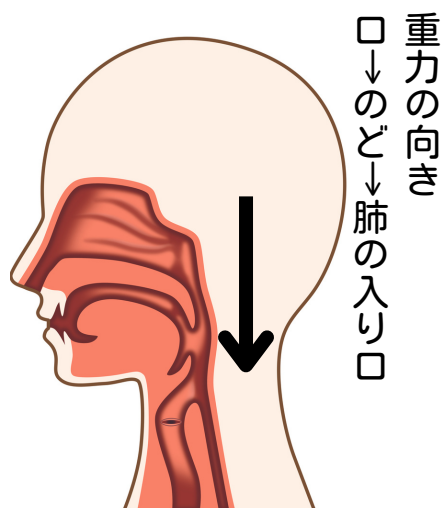
(座位、仰臥位) + **完全側臥位**で

切れ目のない

嚥下障害治療・食支援

【完全側臥位法】

講師派遣



(座位、仰臥位) の場合

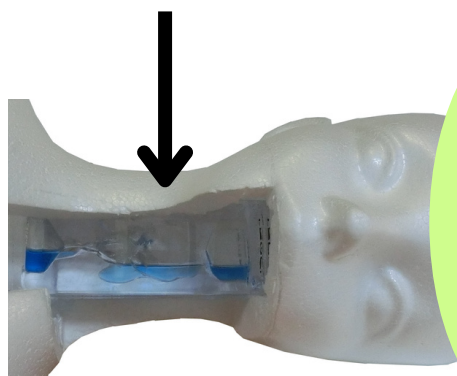
むせて食べられなくなるのは

重力によって

肺の入り口に飲食物がたまるから

座って食べる食習慣

むせずに食べる新しい食習慣



完全側臥位の場合

むせずに食べられるのは

重力によって

喉の側面に飲食物がたまるから

問い合わせ

株式会社甲南医療器研究所

TEL 078-651-3819

メール：maeda.easyswallow@gmail.com

完全側臥位法講師派遣の
詳しくはQRコードから



ムせてうまく食べられない、唾液誤嚥で誤嚥性肺炎を繰り返している、
こんな方への対応にお困りではありませんか？

こういった方への対応方法として、嚥下の代償的な姿勢である完全側臥位法が注目を集めています。
近年の嚥下に関する学会では完全側臥位法を使って経口摂取を再獲得できたとの報告が多数みられています。
また、完全側臥位法は論文も発表されており、EBM (Evidence-Based Medicine) も蓄積されています。
従来の方法と完全側臥位法では、重力のかかり方と（喉にためる・ためない）考え方が異なります。
そのことにより、以下の表のような違いが出てきます。
座位や仰臥位での嚥下障害治療や食支援に多大な時間をかけて習得したと思います。
完全側臥位法を取得するのに従来の方法と混同する方が多くいます。
考え方が異なるので、方法や工夫も異なります。
完全側臥位の考え方、工夫を直接お伝えします

(座位、仰臥位) + 完全側臥位で 切れ目のない 嚥下障害治療・食支援

	従来の方法	完全側臥位法
姿勢	座位、仰臥位	前傾座位 完全側臥位
重力	影響を受ける	影響を受けない
適応範囲	限られる	広い
嚥下障害 の程度	軽度～中度	中度～重度
工夫	誤嚥リスクを少なくする ための工夫	安全に食べる ための工夫
考え方	のどの中には 何も残さない	安全にのどに 貯めておく
方法	交互嚥下や空嚥下 残留物の吸引	姿勢を保つ フィニッシュ嚥下
一口量	3～10cc	10～20cc
中度以上の 食事時間	30～40分	20分以下
唾液誤嚥予防	できない	できる
独自理論		2×4理論 VE診断技術

完全側臥位法の理論と工夫を

臨床経験豊富な講師がお伝えします

- 一口量を15～20ccで食事時間を短くする
- フィニッシュ嚥下で安全なものに置き換える
- 安全な姿勢を保つ方法
- 口腔期、咽頭期、喉頭期、食道期に対する
嚥下障害の症状と対策
- 食事中の症状から嚥下障害を推測し対処
する方法
- VE診断技術の習得
- 唾液誤嚥予防対策

問い合わせ

株式会社甲南医療器研究所

TEL 078-651-3819

メール：maeda.easyswallow@gmail.com

完全側臥位法講師派遣の
詳しくはQRコードから

